

# 入門ミクロ経済学 I

科目ナンバリング ECT-101  
選択必修 2単位

落合 宏

## 1. 授業の概要(ねらい)

私たちが生活を営んでいる現代の経済では財やサービスを取引する「市場」が大きな役割を果たしています。店で買い物したり、企業が商品を販売したり、アルバイトをして給料を得たりと、市場を通じた取引は現代社会において日々の生活そのものといっても過言ではありません。しかし、そのように人々や企業がバラバラに営んでいる市場取引の結果、経済全体ではどのような状態(混乱に満ちた社会になるのか、あるいは逆に調和のとれた社会になるのか等)といった点について深く考えることはあまりなかったかと思われます。本講義では、以上のような問題意識のもと、ミクロ経済学を通して、基本的な市場の機能や特徴を学んでいくことを目的としています。

また、ミクロ経済学の学習を通じて、私たちを取り巻く経済・社会について理論的かつ体系的に考え直すことは、現代の経済・社会を深く理解する上でも、またみなさんが将来就職してよい社会人生活を送る上でも大きな知的財産をもたらしてくれるでしょう。

## 2. 授業の到達目標

市場の基本的な機能と特徴を、「なぜそうなるのか」という根拠も含めて十分に理解することを目的とします。

## 3. 成績評価の方法および基準

小テスト(50%)と期末テスト(50%)で評価します。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

特に指定しません。

参考文献

グレゴリー・マンキュー 『経済学 I ミクロ編』(第4版) 東洋経済新報社 2019年

神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014年

## 5. 準備学修の内容

予習は各回の授業内容を参考に参考文献で該当箇所を読み、予め疑問点を整理しておくことが望ましいです。復習は授業中に出题された練習問題(小テストを含む)を通して理解が浅いと判断した部分を重点的に学習すると効率的です。

## 6. その他履修上の注意事項

- ・多くの経済学の書籍が販売されていますが、深く内容を理解するには、いろいろな基本書を乱読するのではなく、一冊の本をゆっくり丁寧に繰り返し読んでいくことが大切です。乱読よりも味読を心がけてください。
- ・経済学は数学や図を使用することが多いです。計算問題を解く際はもちろんのこと、授業で使用する資料や参考文献を読む際にも実際に自分で紙に計算を書き、図を描き、論旨を確かめながら読み進めてください。
- ・現実経済に対する深い問題意識があって初めて経済理論の学習が意味を持ってきます。したがって、日ごろから新聞を読むなどして時事問題には関心に向けておいてください。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 講義ガイダンス(オンライン)
- 【第2回】 本講義の理解に必要な数学:微分
- 【第3回】 本講義の理解に必要な数学:微分の応用、最大化問題
- 【第4回】 消費者行動の理論:消費者の最適選択
- 【第5回】 消費者行動の理論:所得変化と価格変化
- 【第6回】 消費者行動の理論:賃金が労働供給に及ぼす影響、利子率が家計の貯蓄率に及ぼす影響等
- 【第7回】 企業行動の理論:生産関数と利潤最大化
- 【第8回】 企業行動の理論:さまざまな費用の概念、費用と供給曲線
- 【第9回】 企業行動の理論:競争市場における企業
- 【第10回】 需要と供給の弾力性
- 【第11回】 部分均衡と余剰分析:需要曲線と供給曲線の相互作用
- 【第12回】 部分均衡と余剰分析:消費者余剰と生産者余剰
- 【第13回】 部分均衡と余剰分析:国際貿易
- 【第14回】 不確実性
- 【第15回】 復習(オンライン)